

ランチオンセミナー17

2026年8月28日(金) 11:30~12:30

会場:第10会場
札幌コンベンションセンター2F
206会議室

座長



岩本 航 先生

(社会福祉法人仁生社江戸川病院 スポーツ医学科)

演者



スポーツ復帰を目指す股関節診療の現在:
エコーを用いた保存治療・股関節鏡手術・
骨切り・THA

宇都宮 啓 先生

(東京スポーツ医学研究所)

演者



股関節疾患におけるスポーツ復帰を見据えた
エコー活用と医師・セラピストの連携

町田 聡 先生

(IMS <イムス>グループ 明理会東京大和病院)

■ 認定単位 整形外科専門医資格継続単位(N)、または認定スポーツ医資格継続単位(S) 1 単位
必須分野番号:[1] 整形外科基礎科学、または[11] 骨盤・股関節疾患

日本スポーツ整形外科学会2026 ランチョンセミナー17

日時:8月28日(金)11:30~12:30

座長:岩本 航 先生

(社会福祉法人仁生社江戸川病院 スポーツ医学科 部長)

■スポーツ復帰を目指す股関節診療の現在: エコーを用いた保存治療・股関節鏡手術・ 骨切り・THA

演者:宇都宮 啓 先生

(東京スポーツ医学研究所)

股関節傷害を抱えるアスリートに対して実施している治療について概説する。保存治療が有効なケースは非常に多く、80%以上の症例が復帰可能である。難治性の場合、的確な画像診断が重要である。エコーガイド下の股関節内注射で症状が改善した場合、股関節内病変の関与が示唆される。保存治療が無効の症例では、手術治療を考慮する。FAIが原因で生じた股関節唇損傷の場合は、股関節鏡手術の良い適応である。寛骨臼形成不全が原因のケースでは、筋温存の寛骨臼骨切り手術を考慮する。関節温存の適応がない変形性股関節症の症例に対しては、THAを施行する。いずれの術後も機能改善を目指してスポーツ復帰を試みる。

■股関節疾患におけるスポーツ復帰を見据えた エコー活用と医師・セラピストの連携

演者:町田 聡 先生

(IMS <イムス>グループ 明理会東京大和病院)

当院では大腿骨寛骨臼インピンジメント (FAI) に対して保存的治療や股関節鏡手術を行い、術前後の理学療法を実施している。近年、股関節鏡手術において股関節の安定性に寄与する腸骨大腿靱帯を温存する術式が広まりつつある。一方で、股関節の安定性に寄与する関節包周囲の筋の一つである小殿筋の損傷が避けられず、その機能回復が術後理学療法の重要な課題となる。我々はこれまで慣性センサを用いてFAI患者の歩行時の運動力学的特徴を明らかにし、そのデータを医師と共有してきた。現在はその知見を踏まえ、エコーを用いた筋収縮の評価を行い、術後早期からの小殿筋の活動を促している。ポケットエコーは持ち運びが容易であり、場所を選ばず目的とした筋収縮の確認が可能である。本発表では、FAI患者の歩行時運動力学的特徴とエコーを活用した理学療法介入を通じた医師とセラピストの連携、ならびに股関節疾患に対する現状の理学療法の課題を紹介したい。

展示製品のご紹介

汎用超音波画像診断装置

ポケットエコー mirucO CL5

- デュアルプローブ(リニア・コンベックス)で浅部の確認はもちろん、臀部・股関節等深部の描出にも対応
- ドプラ機能搭載で、エコーガイド下注射時も安心
- バッテリーによる約2時間の連続動作でスポーツ現場でも安心して活用可能



スポーツ現場で



エコーガイド下注射で

導入しやすい価格帯!

本体価格 **495,000** (税込) 円

販売名:ポケットエコー mirucO CL5 一般的名称:汎用超音波画像診断装置
管理医療機器/特定保守管理医療機器 医療機器認証番号:306AFBZX00100000

展示ブース(小間番号33)で実機をご確認ください! ご来場お待ちしております。